

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大和中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語・数学・理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	89.5%	86.1%
将来の夢や目標を持っている。	74.8%	67.5%
自分には、よいところがあると思う	84.3%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	87.6%	84.7%

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢を持っている」の項目では全国平均を上回っています。「自分にはよいところがあると思う」の項目は、全国平均を下回っているので学校生活全般を通じて自己肯定感を高めるような取り組みを行っていきます。「友達との対話を通して、考えを深め、新たな考え方に気付くことができている」の項目で肯定的な意見の割合が高くなっているのは、授業での学び合いにより子どもたちの考えが広がり深まっている成果と考えられます。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	9.0%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.9%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	27.1%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	23.8%	19.1%
「30分より少ない」	15.2%	11.3%
「全くしない」	11.4%	7.7%

家庭学習については全国平均を下回っています。家庭学習時間が1時間未満の生徒が5割以上を占めており、中には全く家庭学習に取り組めていない生徒が11.4%いました。「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の習慣化を家庭と連携しながらすすめていきます。また、自分の目標に向かって計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2)改善に向けての取り組み

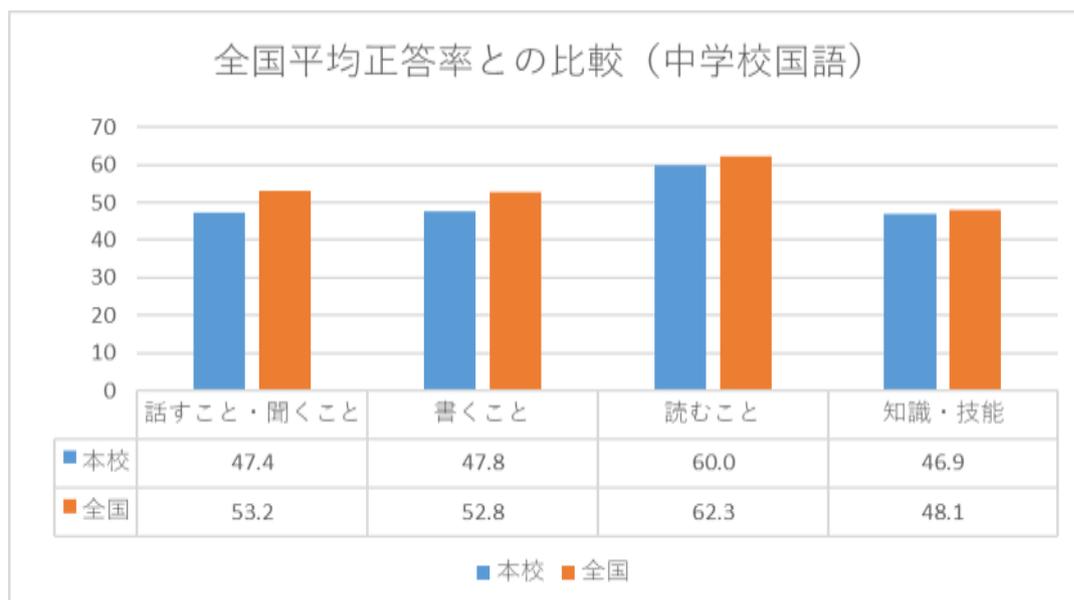
【学校では】

- 学校教育目標「夢や目標をもち、思いやりとチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」に向け、学校行事や学級・生徒会活動等で、個に応じた出番・役割を設定し、努力や成果を認めてほめることで自己肯定感や自己有用感を高めていきます。
- 自分の進路目標に向かってどう取り組むのか、自分で自分のことを決められ、行動できるように支援していきます。

【ご家庭では】

- 子どもの夢ややりたいことを応援し、高みを目指して頑張る姿勢を後押しすることで、良さや可能性を最大限に伸ばすことが大切です。
- SNSを取り扱うルールを守り、ネットリテラシーを高めることが大切です。正しくICTを活用するために、ご家庭でもルールの確認、徹底をお願いします。また、お子様の家庭学習を見守り、取り組みを認めることで、家庭学習がより充実することが期待されます。

2 国語



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。また、無解答率をみると、自分の考えを書く問題で全国平均よりも高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」がほぼ同程度でした。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段の、漢字や言葉の学習の成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。ほかの問題に比べて無回答率が高く、苦手になっている生徒が多くなります。主体的な学びの視点で授業改善を図り、生徒の苦手意識を軽減させ記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

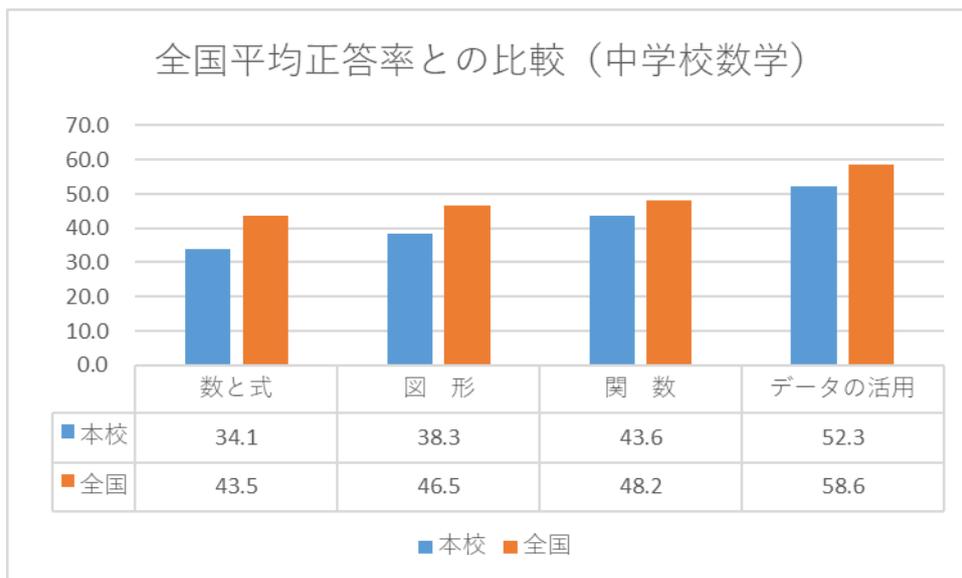
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 家庭学習に取り組むうえで、筆者の意見に対する自分の考えを書いたり、物語への解釈を書いたりするなどの記述問題にも積極的に取り組むように励ましの言葉をお願いします。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、多様な表現や用語にふれることで、「読む」ことを楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 数学



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。また、無解答率を見ると、「B 図形」の領域、特に証明の問題については、全国平均をやや上回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の、数の性質について、ことがらが常に成り立つとは限らないことを説明するため、反例をあげる問題の正答率が全国平均をやや上回っていました。その反面、「B 図形」の領域の、三角形の外角を求める計算や、ある図形が平行四辺形であることを、構想に基づいて証明する問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後は、図形の意味や性質を考え、同じ大きさの辺や角を読み取る力をつけること、筋道を立てて証明することができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

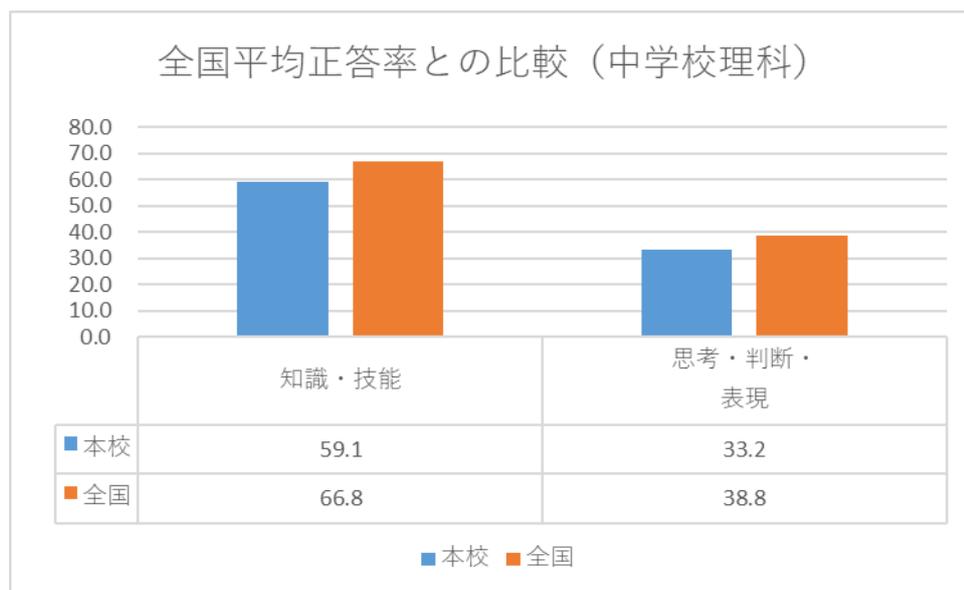
【学校では】

- プリントや問題集を用いて、基本的な問題から練習量を増やし、小テストなどによるフィードバックを行うことで、基礎学力の定着を図ります。
- 学びあい活動を積極的に取り入れ、同時に生徒の苦手に寄り添って個別指導をしていく事で、成功体験を増やし、自ら学習に取り組む姿勢が身につくよう努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、自分の力で取り組む姿勢へ励ましの言葉をかけてください。
- 数学への好奇心、意欲を高めるには、簡単な問題からできることを増やし、自らの思考力で解ける経験を増やし、自信をつけていくことが重要です。間違えた問題も解説をすぐに見ず、最後までやりきるような、前向きに取り組もうとする姿勢も肯定し、成長を認めていくことで、自己肯定感を高めていきましょう。

4 理科



(1) 結果

ほぼすべての領域で全国平均を下回っていましたが、粒子の領域で全国平均を上回っているものがありました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、探求の過程における自分の振り返りを記述する問題で、県平均を1.5ポイント、全国平均を0.6ポイント上回っていました。一般的に思考力や判断力が必要な問題、しかも記述式となると正答率が下がる傾向にある中で、今回の結果は探求の過程を踏まえて学習することの素地は身に付いてきていると言えます。一方で、全国平均より正答率が最も下回った問題は塩素の元素記号を記述する問題で、大文字と小文字を間違えたことや、記号を思い出せなかったために無回答が最も高くなったからと考えられます。学習したことは定期的アウトプットしないと忘れていくので既習事項の確認を授業の中で取り入れていくことも重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

○理科の授業では「事象⇒課題発見⇒予想⇒実験⇒考察⇒課題」という学習過程を経て、思考力・判断力・表現力を向上させる場面を作ります。生徒は実験・観察が好きなので、興味・関心を高めるためにできるだけ多くその機会を作り、また、様々な見方や考え方を養うため、グループ活動を取り入れた授業を展開していくよう努めます。

【ご家庭では】

○学ぶことが「楽しい」と感じる時は、「わかった時」と「学習したことが日常生活の中でつながった時」だと思います。そのような場面をできるだけ増やしていくためには、子どもが「なぜ、こうなるのだろう？」という疑問を発したときにすぐ答えを教えるのではなく、「どうしてだと思う？」「私もわからないから、調べてみてわかったら教えて」と返すことで、学ぶ意欲につながり、さらに学ぶ楽しさにもつながると思います。